令和3年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	家庭	子どもの発達と保育	2	2	選択	福間 あゆみ
使 用 教 科 書			副 教 材 等			
子どもの発達と保育 新訂版			なし			

【 科目のねらい 】

(1)保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
(2)子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を磨く。
(3)子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を高める。

【 評価の観点 】(どのような力を身に付け、何ができるようになるか)

		①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
育成を目指す資質・能力		●基礎的な知識・技能 ●情報活用力	●コミュニケーション力 ●課題設定・解決力 ●批判的思考力	●自己理解・成長力 ●他者とチームで活動する力 ●組織に求められる人間性
	A	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識や技術を実習や観察を通じて深め積極的に身に付けようとしている。	子どもを生み育てることや、家族の役割や地域の支援について課題を見いだし、思考を深め、判断し、創意工夫し表現する能力を身に付けている。	子どもや支援を行っている人と交流をする学習を通して、発達の特性や発達過程に対応した技術を身に付けようとしている。
	B	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識や技術を積極的に身に付けようとしている。	子どもを生み育てることや、家族の役割や地域の支援について課題を見いだし、適切に判断し、表現する能力を身に付けている。	子どもや支援を行っている人と交流をする学習を通して、発達の特性や発達過程に対応した技術を身に付けようとしている。
	C	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する基礎的な知識や技術を身に付けようとしている。	子どもを生み育てることや、家族の役割や地域の支援について課題を見いだし、表現する能力を身に付けている。	子どもや支援を行っている人と交流をする学習を通して、発達の特性や発達過程に対応した基本的な技術を身に付けようとしている。
具体的な評価方法		(1)定期考査 (2)実習の観察 (3)実習参加態度	(1)定期考査 (2)レポート	(1)授業態度 (2)授業プリント (3)製作物
割合		50%	25%	25%

【 学びの方法 】(何で(教材)、どのように(授業の方法、学び方)学ぶか)

授業への取組	(1)授業に積極的に参加する。 (2)教科書・プリント・製作を中心に行う。 (3)保育実習を行います。 (4)実習では必ずレポートを提出する。
学びの留意点	(1)提出物の不備や未提出に関しては評価が大きく下がります。 (2)提出物・作品製作では期限を守ること。
主体的な学びの進め方	(予習) 次回の授業範囲の教科書を読み、事前知識を頭に入れる。 (復習) プリントを見直し、重要な用語を教科書と照らし合わせ再度振り返る。 製作物について作り方を再度振り返る。
備 考	実習費がかかります。調理の際はエプロン・三角巾の用意をお願いします。

【 年間計画 】(いつ何を学ぶか)

月	考査範囲	単元	内容	ねらい	時数	評価の観点 ①	②	③
4	前期中間		オリエンテーション	「子どもの発達と保育」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、座学や体験的学習の方法、評価方法を理解できる。	1			
5	前期中間	第1章 子どもの発達の特性	①生涯発達における乳幼児期の重要性 実習:折り紙をしよう(~3月) ②発達と環境 ③発達感・児童感とは	人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを理解できる。	5 5 3	○ ○	 ○	 ○
6 7 8 9	前期期末	第2章 子どもの発達過程	①生涯発達における乳幼児期の重要性 ②乳幼児期のからだの発達 ③乳幼児期の発達の特徴 ④人間関係の発達 ⑤心の発達 定期考査	人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを理解できる。	3 1 1 2 3	○ ○ ○	 ○ 	 ○
10 11 12	後期中間	第3章 子どもの生活	①子どもの健康と生活 ②子どもの食事 実習:子どものおやつを作ろう ③子どもの衣服 ④子どもの遊びと生活 ⑤子どもの健康管理	乳幼児の生活の特徴を学び、健康を保持増進し、順調な成長を促す上で、発育・発達に応じた養護が必要なことを理解できる。 乳幼児の衣服や寝具について、身体的特徴を踏まえ、何を選択したら良いか理解できる。	2 3 4 5 5 2	○ ○ 	 ○ ○	 ○ ○
		第4章 子どもの保育	①保育の意義と目標 ②保育の方法 ③保育の環境 定期考査 実習:子どものおもちゃを作ろう 実習:保育実習	保育の目標は、適切に養護しながら教育的に関わることであり、子ども自身の成長・発達を援助、養護することであると理解できる。 子どもが育つ環境の変化を資料などを元に学び、子どもにとって望ましい環境とは何かを考えることができる。	1 1 1 9	○ ○ 	 ○ ○ 	 ○
1 2 3	後期期末	第5章 子どもの福祉と子育て支援	①子どもの福祉 ②子育て支援 実習:子どもの食事を作ろう 実習:保育実習 定期考査	児童福祉の理念や法律、制度について学び、単に保護するのみではなく、次代を担う児童の健全育成を目的としていることを理解できる。 児童相談所などの児童福祉機関や施設の種類と目的を学び、児童と家族に対する社会的援助について理解できる。	1 7 5 	○ ○ 	 ○ 	 ○

令和3年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	家庭	服飾手芸	3	3	選択	福間 あゆみ
使 用 教 科 書			副 教 材 等			
なし						

【 科目のねらい 】

(1)手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を身に付ける。
(2)手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を高める。

【 評価の観点 】(どのような力を身に付け、何ができるようになるか)

		①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
育成を目指す資質・能力		●基礎的な知識・技能 ●情報活用力	●コミュニケーション力 ●課題設定・解決力 ●批判的思考力	●自己理解・成長力 ●他者とチームで活動する力 ●組織に求められる人間性
	A	手芸の種類と特徴及び変遷に関心を持ち、その種類と変遷に興味を持ち、技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	作品製作を多様な視点から捉え、感性を豊かに働かせて、より美しい作品製作を目指し、また合理的な製作工程を目指して課題を発見する能力を高めている。	手芸品製作を目指して自ら選び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
	B	服飾手芸に関心を持ち、その種類と変遷に興味を持ち、手芸品製作についての基礎的な知識を理解するとともに、基礎的・基本的な技能を身に付けようとしている。	感性を豊かに働かせて、より美しい作品製作を目指し、また合理的な製作工程を目指して課題を発見する能力を高めている。	手芸品製作に意欲的に取り組むとともに、服飾への活用に実践的な能力や協働的に取り組む態度を身に付けようとしている。
	C	服飾手芸に関心を持ち、その種類と変遷に興味を持ち、各種手芸に必要な基礎的・基本的な技能を身に付けようとしている。	作品の完成を目指し、また合理的な製作工程を目指して課題を発見する能力を高めようとしている。	手芸品製作に意欲的に取り組むとともに、実践的な能力や協働的に取り組む態度を身に付けようとしている。
具体的な評価方法		(1)実習製作物 (2)実習参加態度 (3)作品仕上がり	(1)授業プリント (2)レポート	(1)授業態度 (2)課題提出
割合		50%	25%	25%

【 学びの方法 】(何で(教材)、どのように(授業の方法、学び方)学ぶか)

授業への取組	(1)被服室での講義や実習となる。積極的・主体的に実習等に取り組むこと。 (2)作品制作に取りかかる前に、作品の特徴や歴史に触れ知識を深めてから制作に入る。
学びの留意点	(1)提出物の不備や未提出に関しては評価が大きく下がる。 (2)作品の作業進度も成績に関わるので丁寧に早く美しく仕上げましょう。 (3)作品は必ず完成したものを提出してもらう。作業が遅れている人は、昼休みや放課後に補習を行う。
主体的な学びの進め方	(1)自らの課題を持って、作品制作に取り組む。また、完成した後の振り返りや反省をしっかりと行う。 (2)作品制作では、創意工夫やオリジナリティが大切です。
備 考	この授業では実習費がかかります。

【 年間計画 】(いつ何を学ぶか)

月	考査範囲	単元	内容	ねらい	時数	評価の観点		
						①	②	③
4 5 6	前期中間		オリエンテーション	学習の意義や内容、作品製作と提出について、また成績や、評価の方法を理解することができる。	1			○
		フェルト小物 (バッジづくり)	①手縫いの基本 ②道具の使い方 ③作品製作	小中学校で行った針や糸の基本的な使い方や知識について復習し、どのようにしたら丁寧に仕上げられるかを考え、作ることができる。	1	○		○
					1	○		
					6	○	○	
		刺繍 こぎんさし	①刺しゅうの種類 ②刺しゅう糸の扱い方 ③作品製作	針や糸の種類を理解し、適した道具をつかって製作することができる。	1	○		○
					2	○		
					7	○	○	
		フランス刺繍	①フランス刺しゅう基本技法 ②フランス刺しゅうのステッチの名称 ③作品製作	フランス刺しゅうの特徴、ステッチ名を理解し、図案通りに作品製作することができる。	1	○		○
					3	○		
					6	○	○	
7 8 9	前期期末	クラフトバンド	①クラフトバンドについて ②編みものの種類 ③作品製作	再生紙など環境に配慮した素材を使用したクラフトバンドの編み方について知り、作品製作をすることができる。	2	○		○
						○		
					8	○	○	
		フェルト小物 (マスコットづくり)	①計画 ②作品製作 ③プレゼントした人に感想をいただき、振り返りを行う	これまでに学んできた手縫いの技法をいかして作品を製作し、お世話になっている人へプレゼントし、作品の製作過程や出来栄えについて振り返ることができる。	2	○		○
					8	○	○	
							○	
10 11	後期中間	羊毛フェルト	①羊毛フェルトについて ②羊毛の扱い方について ③作品製作	羊毛がフェルト化する原理について知り、作品を製作することができる。	1	○		○
					2	○		
					6 6	○		○
		ミシンを使った小物づくり	①ミシン縫いについて ②作品製作	小中学校で習ったミシンの基本的な使い方や知識について復習し、どのようにしたら丁寧に仕上げられるかを考え、作ることができる。	9	○		○
						○	○	○
12 1	後期期末	自由製作	①計画 ②作品製作 ③振り返り	イメージを具現化し、今まで習った技法を活用して作品を完成させることができる。	9	○		
								○
					8	○	○	

令和3年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	家庭	フードデザイン	3	3	選択	福間 あゆみ
使 用 教 科 書			副 教 材 等			
フードデザイン 新訂版 （実教出版）			フードデザイン新訂版 学習ノート（実教出版） 七訂準拠カラーガイド食品成分表（大修館書店）			

【 科目のねらい 】

（1）栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身に付ける。
（2）食生活を総合的にデザインし、食育の推進に寄与する能力と態度を高める。

【 評価の観点 】（どのような力を身に付け、何ができるようになるか）

		①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
育成を目指す資質・能力		●基礎的な知識・技能 ●情報活用力	●コミュニケーション力 ●課題設定・解決力 ●批判的思考力	●自己理解・成長力 ●他者とチームで活動する力 ●組織に求められる人間性
	A	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を総合的に身に付け、食育の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な技術を積極的に高めようとしている。	食生活を総合的に捉え、計画・実践するために課題を見いだし、その解決を図るための方策の探究や実践を主体的に行う能力を身に付ける。	食品に関心を持ち、その向上のために主体的に取り組もうとする。また、食育の推進に向けて積極的に取り組もうとする意欲と態度を身に付ける。
	B	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身に付け、食育の意義を理解し、基礎的・基本的な技術を身に付けようとしている。	食生活を総合的に捉え、計画・実践するために課題を見いだし、基礎的・基本的な知識と技術を基に、思考を深め表現する能力を身に付ける。	食品に関心を持ち、その向上のために主体的に取り組もうとする。また、食育の推進に向けて取り組もうとする意欲と態度を身に付ける。
	C	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身に付け、基礎的・基本的な技術を身に付けようとしている。	食生活を総合的に捉え、計画・実践するために課題を見いだし、思考を深め表現する能力を身に付ける。	食品に関心を持ち、食育の推進に向けて取り組もうとする意欲と態度を身に付ける。
具体的な評価方法		（1）定期考査 （2）実習の観察	（1）定期考査 （2）レポート （3）実習の振り返り	（1）授業態度 （2）授業プリント （3）実習参加態度
割合		50%	25%	25%

【 学びの方法 】（何で（教材）、どのように（授業の方法、学び方）学ぶか）

授業への取組	（1）授業に積極的に参加する。 （2）教科書・プリントを中心に行う。 （3）地域の方々との合同の授業もあります。 （4）実習前は計画を個人またはグループで立て、それに沿って実習を行う。 （5）実習では必ずレポートを提出する。
学びの留意点	（1）提出物の不備や未提出に関しては評価が大きく下がります。 （2）調理実習等の班別行動は、仲間と協力、協調することが大切です。
主体的な学びの進め方	（予習） 次回の授業範囲の教科書を読み、事前知識を頭に入れる。 （復習） プリントを見直し、重要な用語を教科書と照らし合わせ再度振り返る。
備 考	授業に必要な用具（調理実習時のバンダナ、エプロン）を忘れずに用意して下さい。 この授業では実習費がかかります。

【 年間計画 】(いつ何を学ぶか)

月	考査範囲	単元	内容	ねらい	時数	評価の観点 ①	②	③
4 5 6	前期中間		オリエンテーション	成績、授業に取り組む姿勢等の説明を受け、今後の学習内容について理解できる。	1			
		1章 食生活と健康	1節 食事の意義と役割	集団での食事の意義を再確認し、実践することができる。	3	○		○
			2節 食を取り巻く現状	地球環境の保全、資源の有効活用について理解し日常の生活行為を見直す。市場にあふれる食料の背景にあるものに気づき、食料の価値を考えることができる。	3	○		
	前期中間	2章 栄養素のはたらきと食事計画	1節 からだのしくみと食べ物	人間の栄養摂取のしくみ、消化吸収の働きを理解する。各種栄養素の特徴と体内での働きについて理解する。各種栄養素の体内での消化・吸収の過程を理解することができる。	6	○		
			9節 食事摂取基準と食事計画		8		○	○
			10節 ライフステージと栄養計画		2	○		
		4章 調理の基本	1節 調理とおいしさ	調理の基本的操作を理解し、実生活に結びつけることができる。 料理の要点を知り、用途別、対象別に、栄養のバランスや味の調和がとれた料理をつくることができる。	2	○		
			2節 調理操作		2			○
			3節 調味操作		2		○	
7 8 9	前期期末	3章 食品の特徴・表示・安全	1節 食品の特徴と性質 調理実習	調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上に生かせる。家族の健康を考えた日常料理を知り調理できる。	7		○	
						○		
			定期考査	乳・乳製品、卵、魚介類、肉類、大豆・豆製品、緑黄色・淡色野菜、海藻類、果物、穀類、砂糖、油脂、調味料、香辛料の特徴を理解し、おいしい料理をつくることができる。	7		○	
			むかわの農作物について知る	むかわの農産物について地域の方々から学び、生産者の苦労や喜びに触れることができる。	6	○	○	○
10 11	後期中間	3章 食品の特徴・表示・安全	1節 食品の特徴と性質 調理実習 むかわの農作物について 加工・調理実習 講話:雪印メグミルク「チーズの話」	調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上に生かせる。家族の健康を考えた日常料理を知り調理できる。	9	○		○
					8	○	○	○
12 1	後期期末	5章 料理様式とテーブルコーディネート	1節 料理様式と献立	食事の意義と役割について理解し、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得することができる。	8	○		
			2節 テーブルコーディネート		6			○
			調理実習 テーブルコーディネート	和風・洋風・中国風等の料理を引き立てるようなテーブルセッティングができる。	4	○		
		6章 フードデザイン実習	1節 献立作成 定期考査	栄養バランス・年齢・性・身体活動レベル・目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、用途に適した献立が作成できる。	6		○	